ベネディクト・クレックナー（チェロ）

Benedict Klöckner, Cello

**「技術、イントネーション、色彩を完全支配した完璧かつ本当に驚異的な演奏！」（ダニエル・バレンボイム）**

**「本当に大好きな演奏」（サイモン・ラトル）**

1989年生まれ。バレンボイムやラトル、エッシェンバッハ、メッツマッハ―らの指揮のもと、ロイヤル・フィルやザールブリュッケン・ドイツ放送フィル、ライプツィヒMDR響、クレメラータ・バルティカなどと共演。ソロのほか、アックスやA.シフ、クレーメル、バティアシュヴィリ、バシュメットらの超一流奏者と室内楽をし、ベルリン・フィルハーモニーやウィーン楽友協会、コンセルトヘボウやゲヴァントハウスなどの主要音楽ホールに出演している。

現代音楽にも力をいれ、近年ではリームの「2台のチェロと弦楽のための二重協奏曲」や藤倉大のチェロ協奏曲のほか、ハワード・ブレイク、ジェフリー・ゴードン、エリック・タンギーらの曲を初演。

2021/22年シーズンでは、ベルリン・フィルハーモニー、フランクフルトのアルテオパー、

カーネギーホールでのJ.S.バッハの無伴奏チェロ組曲全曲演奏や、ケープタウン・フィルとのンドダナ・ブリーンの新作チェロ協奏曲の初演を予定している。21年の6月には、小菅優との室内楽プロジェクトで、サントリーホール・ブルーローズに出演、日本デビューを果たした。

録音も多く、ドイツ・レコード批評家賞などにもノミネートされるなど国際的メディアからの評価が高い。

使用楽器は、かつてモーリス・ジャンドロンが演奏していたイタリア製のフランチェスコ・ルジェッリ（1680）。